

第2学年 音楽科学習指導案（略案）

○組 計40人
指導者 ○○ ○○

1 題材 2びょうしと3びょうし

教材 ◎「トルコこうしんきょく」ベートーベン作曲／「メヌエット」ヘンデル作曲（本時主教材）
「いるかはざんぶらこ」東 龍男作詞 若松正司作曲
「山のポルカ」 芙龍明子作詞 チェコ民謡

2 本時（1／12）

(1) 目標

イ 拍子の違いを感じ取って聴くことができる。【思考力、判断力、表現力等】

ア 2拍子と3拍子の違いに関心を持ち、拍子の違いを感じ取りながら聴く活動に進んで取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開に当たって

子供たちが楽曲に対するイメージを広げやすくするために、聴いてどんな感じだったかを互いに話し合う活動を取り入れる。また、2拍子と3拍子の違いを感じ取ることができるように、身体表現の活動を取り入れるようにする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	○教師の具体的な働きかけ ※評価規準
課題把握	1 2拍子や3拍子の既習曲に合わせて身体表現をする。 2 二つの楽曲を聴き、感じたことや本時のめあてを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">音がくに合わせて、からだをうごかしながらかこう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1曲目は行進しているみたいで、2拍子の曲だ。 ・ 2曲目はおどりの音楽みたいで、3拍子の曲だ。 	(分) ↑ 15 ↓	○ 本時の学習への意欲付けを図るために、既習教材で拍子の違いを感じ取る身体表現をさせるようにする。 ○ 楽曲のイメージを広げるために、互いに話し合う活動の場を設定したり、行進や（2拍子）踊り（3拍子）の様子を表した写真を見せたりする。 ○ 本時のめあてを導き出すために、「聴きながら体を動かすときには、どんなことに気を付けたらいいかな。」と問いかけるようにする。
課題追求	3 2拍子や3拍子に合わせて身体表現をする。 (1) 個人で強拍（膝打ち）、弱拍（手拍子）をする。 (2) ペアで強拍（手拍子）、弱拍（手合わせ）をする。 (3) ペアを代えて行う。 4 強弱の変化に合わせて身体表現をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の小さいところは、小さく手拍子をしよう。 	↑ 25 ↓	○ 子供たちが無理なく身体表現の活動に取り組めるように、個人から始め、ペアへ、そしてペアを交代して、段階的に身体表現をさせるようにする。 ○ 強弱の変化に気付くことができるようにするために、強弱の変化を身体表現に取り入れているペアに、身体表現の手本をさせるようにする。 ○ うまく拍の流れにのれない子供には、教師がその子供の肩を軽くたたきながら拍の流れに合わせさせたり、その子供とペアで身体表現をしたりする。
表現活動	5 相互発表・鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○さんたちの発表は、拍子や音の大きさに合っていました。 	↓ 5 ↑	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">※ 拍子の違いを感じ取って身体表現をしながら聴いている。 【身体表現の様子観察】</div> ○ 本時で学んだことを次時の表現の活動に生かせるようにするために、本時で分かったことやできるようになったことを発表させるようにする。
相互発表・鑑賞	6 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 拍子や、音の大きさに合わせて体を動かすことができました。 	↑ 5 ↓	
まとめ			